

鎌倉市次世代育成支援に関する行動計画の策定のための市民会議

まとめ

腰越地域	第4集会室	平成16年6月17日(木)	午後 2時~ 3時30分	19名
鎌倉地域	講堂	平成16年6月19日(土)	午前10時~ 11時30分	15名
大船地域	レイ・ウェル鎌倉集会室	平成16年6月19日(土)	午後 2時~ 3時30分	15名
玉縄地域	第1集会室	平成16年6月21日(月)	午後 2時~ 3時30分	23名
深沢地域	ホール	平成16年6月22日(火)	午後 7時~ 8時30分	20名

目 的 市民のみなさんから広くご意見を伺い、市民参画によるプランの策定を推進するために実施した。

実施方法 懇談会形式

(1) 保育・子育て支援について	現 状 と 課 題	方 向 性
	<p>地域の人々の間で、子どもを一時的に預かってくれるとよい。とくに、地域の間で様々な年齢の人間が互いに、交流し、支え合えるようにしてほしい。</p>	
	<p>子育て中の親が地域から孤立すると、ストレスや不安のために苦しむ。</p>	<p>・幼稚園や小学校に入る前に、地域の中で、子育て中の親たちが交流できるような、機会や場所を増やしてほしい。</p> <p>・子ども会館はあるが、十分に機能していないので、そこに子育て支援センターの機能をもたせるなど、子育て中の親の交流の促進のために、様々な方法を考えることが必要である。</p>
	<p>子育て支援センターが、市内に2ヶ所というのは少ない。また、アクセスがしにくい。</p>	<p>市内各地域に、子育て支援センターを設置してほしい。</p>
	<p>子どもは年齢によって、遊び方が異なるので、その違いに対応できる体制が必要である。</p>	
	<p>子育て支援センターは、アクセスや利用できる時間に問題がある。</p>	
	<p>自然を利用した子育てに力を入れてほしい。</p>	<p>もっと大きな子育て支援センターをつくってほしい。</p>

(1) 保育・子育て支援について	現 状 と 課 題	方 向 性
	鎌倉市の幼稚園は、市立だけで公立がない 子どもが病気になった場合、日本の企業では、職種にもよるが、休むのは困難である。	
	地域の間人関係が希薄になっていることが、子育てに限らず、地域福祉全般の問題である。	地域で、日頃からお互い挨拶し、交流を深めることによって、コミュニティをつくる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・そのために、ファミリーサポートセンターを利用する方法があるが、利用料がかかるので、家庭の状況によっては、補助をする。 ・子育て支援センターは、規模を大きくして、土日でも利用できるようにする。
		保育園を代わったが、新しい保育園に慣れるまで、仕事を続けてながらの「ならし保育」のことを検討する。
	子育て中の母親のストレス解消が問題であるが、子ども連れで、親が子育てサークルに入り、明るくなっている。	
	保育園の民営化が進んでいるが、広報に掲載している保育時間が実際と異なっていたりするなどの課題がある。	行政が保育サービスの質の確保に配慮する。
		子育てを楽しくできるように、親たちを支援していく。
	子育てサロンなどに出てくる親はいいが、家庭内で一人悩んでいる親の方が深刻である。	家庭内で孤立して子育てをしている親たちに手を差し伸べる。

(1) 保育・子育て支援について	現 状 と 課 題	方 向 性
	子ども会が、親中心になっていて、子ども主体とはいえない。	子ども同士が、交流の中から、社会性を身につけていけるようにする。
	ファミリーサポートセンターは、様々な年代と性別の人々がふれあえる、よい機会である。	ファミリーサポート的発想による、子育て応援団のようなものを地域に広げていきたい。
		地域の子育てグループの活動が盛んになってきており、主任児童委員も、虐待などへの取り組みに重点を移すなど役割を見直したい。
		青少年指導員の中では親子で参加できる行事を多くとり入れている。子ども同士で遊べる場作りを地域で積極的にする。
	子どもの家に通う子どもは非常に少ない。	植木地区では、今後、マンションの建築計画が多数あり、子どもたち放課後の遊び場、居場所がもっと充実されなければならない。
	父親の子育て参加の機会を与えることが必要。	
	玉縄地区には子どもが交流できる場が少ない。	保育ボランティアのような、母親がリフレッシュできる場や、子どもが他の子どもと遊べる場を提供する。
	企業に対する計画策定は従業員300人以上の規模に対してのみ義務付けられており、それ以下の規模では努力義務になっている。	300人以上では一部の大企業だけになってしまうので、中小企業まで含めて社会全体に広げて考えるべきだ。
	保育園では、はしかやおたふく風邪などにかかると登園禁止になり、1週間～10日間は強制的に休まされるため、共働きのどちらかが交替で仕事を休まなければいけない。	子どもが病気のときに、一時的にでも預かってもらえるところがほしい。

(1) 保育・子育て支援について	現状と課題	方向性
		マニュアル世代の母親たちに、実体験の場や、子育てに関する交流の場を提供する。
		「ママと赤ちゃんのたまり場」の活動は月に1度では少なく、場所も駅の近くや若い人の住んでいる場所で行ってほしい。
	現在、鎌倉市の子育て支援センターは鎌倉と大船に2箇所あるが、地域によっては行きづらい場所である。	現在、玉縄、植木、関谷の子ども会館が子育て支援センターというかたちになれば利用しやすくなる。
		「家族が楽しめるふれあい広場」で、子どもたちが集える場作りとしての企画、雰囲気作りを市でやる。
		企業が、社員の子どもが病気の時に帰りやすい状況を作る。
		「鎌倉市ファミリーサポートセンター」を玉縄地域の中に1つ設けてほしい。
	子ども会館で、お年寄りが子どもに遊びや読み聞かせなどを行うと良いのではないかと思い、かけ合ったが、老人を理由に利用を断られた。	高齢者福祉センターのような場に、子育て中の母親達が子どもを連れて来る等、いろいろな場で異世代間の交流をする必要がある。
	ファミリーサポートセンター等で市が子育てについて過剰に保護せず、女性の育児能力を自然に育てていく。	「産めよ増やせよ」のような社会のムード、価値観を作り上げれば、金銭的には補助がなくても女性は子どもを産みやすくなる。

(1) 保育・子育て支援について	現状と課題	方向性
	<p>保育園や病院で、父親が子どものことを聞きたくても、「子どものことをよく知っている母親を」と断られてしまうことがあった。</p>	<p>「子育ては女性のもの」という世間一般の既成概念を変えて行く必要がある。</p>
	<p>子どもがいるとやりたいことが制限されてしまう、という親自体の考え方が変わらない限り、今後支援策がいくらできても子どもが増えることは難しい。</p>	
		<p>図書館などを、多世代間交流の場として、積極的に活用する。</p>
	<p>子どものときだから経験できることがあり、勉強は大人になってからでもできる。</p>	<p>子どもの体験学習、戸外の集団活動などの意味を、講演会などを通じて、広く市民に啓発していく。</p>
	<p>0歳から4歳の子ども親、とくに、生後4、5ヶ月までの子どもがいる親は、地域から孤立して、ストレスが溜りやすく、場合によっては、児童虐待につながる。</p>	<p>母親学級までいいが、出産後の親の精神面のフォローに力を入れる。その方法のひとつとして、交流の機会と場の確保は有効である。</p>
		<p>子育てに関わる専門家が、もっと地域に出て、出前の仕方で、子どもに遊びを教えたり、遊びを仕掛ける。</p>
		<p>国の指針では「子育てについての親の一義的な責任」を強調しているが、子育て中の親を追いつめるのではなく、地域と社会で支援してくことを前提としなければならない。</p>

(1) 保育・子育て支援について	現 状 と 課 題	方 向 性
	<p>子どもはほしいが、経済的な理由に加えて、子育て環境の不備に関する情報が多く、その一方で、子育ての楽しさを教えてくれる人がいない。また、地域の支援も当てにできず、子どもを産むという決断ができない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを育てることは、不自由な面もあるが、それに優る喜びもある。地域との関係についても、子どもをもつことで、コミュニケーションが広がる。 ・不安はあるだろうが、保育士や地域の人々の支えがあれば、育てることはできる。 ・環境面については、不足な部分は必ずあるものであり、周囲の人々と交流しながら、理想に向けて少しずつ近づけていく。
		<p>同世代の親だけでなく、年齢の異なる人との交流の機会を増やす。</p>
		<p>子どもをもつことが不安だったが、子どもをもつことで、地域の人々との交流が増えていく。</p>
	<p>市内に子育て支援センターが2ヶ所しかない。 子育て中の親同士で交流がある場合はいいが、そうしたものに参加せず、一人で子育てに悩んでいる親が問題である。</p>	<p>市内各地域に子育て支援センターがほしい。</p>

(2) 家庭における子育てについて	現状と課題	方向性
	<p>家庭が子育てや教育の基本であるが、すべてを家庭で対応することは困難であり、地域全体で子育てを支援する体制を構築することが重要である。</p>	
		<p>次の世代の子どもを育成するためには、まず、親の教育をする。</p>
	<p>家庭教育における、愛の重要性を強く打ち出してほしい。</p>	
	<p>今の子育て家庭は、昔のような大家族ではなく、核家族が多いため、子育てしていると息がぬけず、ストレスがたまる。</p>	
	<p>市内のファミリーサポートセンターの料金は安いと思う。</p>	
	<p>5～6年前までは学童の終わる時間帯にきちんとお迎えに来る母親が多かったが、ここ1～2年はお迎えをする母親が極端に減っている。子育てに対する考え方が変わってきていると思う。</p>	
	<p>子どもは一人でゲームはできても、集団で遊ぶことが下手になっている。</p>	<p>子どもたちが、自然の中で、集団で遊ぶことができるようにする。</p>
	<p>親が子どもを危険な目に合わせたくないのも、子どもをのびのびと遊ばせることに消極的になっている。</p>	<p>多少、危険なことも、経験しながら、子どもが遊べるような配慮が必要である。</p>

(3) 学校について	現 状 と 課 題	方 向 性
	小学校で、学校への外部からの不審な侵入者をどう防ぐかが課題となっている。	保護者が証明カードをもつという方法などが出ているが、子どもの立場になった対策を考える。
	親が、教育の問題を、すべて学校に任せるといふ姿勢には疑問がある。	
	家の回りには安心して子どもを遊ばせられるところがなく、家でゲームばかりしている。	学校の校庭を開放して、安心して子どもだけで遊ばせられるようにする。
	鎌倉市では、他市に比べて、不登校児の増加、ひきこもりの増加が目立つ。	

(4) 保健・医療について	現 状 と 課 題	方 向 性
	小さな子どもが病気になったときの対応を考えてほしい。前回の児童育成計画では、母子保健の領域に近い「小児医療の充実」が盛り込まれていなかった。	小児医療の充実に力を入れてほしい。とくに、待ち時間の長さ、アクセスの困難を解決する。
	ファミリーサポートセンターで、子どもが病気のとくに預かってもらえるといい。	
	鎌倉市は産婦人科や小児科が少ない。また、対応の悪いところもある。	医療体制の充実を図る。

(5) 経済的負担について	現 状 と 課 題	方 向 性
	少子化が止まらない要因として、子育て・教育の経済的負担の大きさがある。	国や自治体レベルで、子育て家庭のために思い切った経済的支援をする。
	各種手当での所得制限の廃止については、色々な見方があるが、経済力のある家庭と他の家庭と一緒に考えてよいか、という問題がある。	子どもが病院に通うのは4歳位までが多いので、その年齢までは、所得制限を撤廃するとよい。
	子どもは、大人よりも、病気になることが多いので、所得制限があると厳しい。	
		医療費の助成、保育園、幼稚園の利用料の補助などの経済的支援を充実させてほしい。
	各種手当での所得制限については、所得が少ないからお金が必要だとはいえても、所得が多いから、お金が必要ない、とはいえない。	
		医療費については、所得制限をはずしてもいいと思う。
	共働き家庭の収入の半分が子育ての保育料、サポートセンターの支払、医療費等で消えて行く現状では、これから先、子どもが増えるようになるとは思えない。	子どもは将来を担う社会にとっての宝であるという意識を持ち、地域全体が子どもたちを守る具体的な環境や意識を育てていく。
	各種手当の所得制限は残した方がよいという考えが多い。	
	年収200万～250万母子家庭と年収1000万の世帯で一律の児童手当ということは考えられない。	
		子どもが小児喘息だったが、医療費控除対象年齢を上げ、所得制限を緩和してほしい。

(5) 経済的負担について	現 状 と 課 題	方 向 性
		病院の行くことの多い3歳までは、所得制限を撤廃してほしい。

(6) 公園について	現 状 と 課 題	方 向 性
	鎌倉市には自然は沢山あるが、安心して子どもを遊ばせることのできる公園が少ない。	雨の日にも、安心して子どもを遊ばせることのできる公園を作る。
	福祉センターの子育て広場は、子どもの遊び場としては不十分である。	
	市内の公園の遊具が鉄でできているので、安全面で不安である。	プラスチック製の遊具にするなど、公園の設備をより安全なものにする。
	子どもたちが伸び伸びと、安全に遊ばせられる広い公園、遊び場をつくる。	

(7) 生活環境について	現 状 と 課 題	方 向 性
	地域で、昼間など人が全く歩いておらず、防犯面で不安がある。	地域の人々のコミュニケーションを、よくすることが、防犯にもつながる。
		子どもの安全への配慮も重要だが、まず、のびのびと運動できる環境づくりが必要である。
	子どもが戸外で遊んだり、自然とふれあったりするような体験が乏しくなっている。	
		通学路だけでも子どもが安全に歩けるよう、幅の広い通学路を設けてほしい。
		男子トイレにもベビーベッドを多く設置してほしい。
		悪いこと、危ないことをした子どもを見たら注意してあげる。

(8) 情報提供や相談体制について	現 状 と 課 題	方 向 性
	育児情報が沢山あり過ぎて、適切な情報がとれかを判断することが困難である。	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て情報を、適切に取捨選択し、うまく利用する方法を教えてほしい。 ・地域の子育て経験者から、子育てについての適切なアドバイスがほしい。
	地域レベルにおける情報の交流が十分ではない。	主任児童委員や子育てグループが、情報を求めている人と、情報をもっている人と「つなぐ」役割を十分に果たしていく。
	育児情報が氾濫しているが、むしろ、子育て経験のある年長者のアドバイスの方が役に立つ場合がある。	地域で、同世代の親たちだけでなく、多世代間交流する機会と場の提供を推進する。とくに、小学校などの空き教室を活用する。
		幼稚園に入ってからでは子育て情報が手に入りやすくなったが、子どもの小さい時に、子育て情報がうまく伝わる方法を考える。
		民生委員等を市民に広く認知させる。
	「かまくら子育てメディアスポット」は一般市民の9割は知らないと思う。	
	子育ての悩みをもつ親たちが、情報交換したり、悩みを相談できる場所が地域にほしい。	子育て経験や、資格のある地域の人材を、公園のプレイパークなどの子育て支援事業に積極的に活用する。
	子育て情報はインターネットなどで十分過ぎる位手に入るが、どれを信じたよいかわからない。	<ul style="list-style-type: none"> ・年長者のアドバイスや実体験の話をきけるようにしてほしい。 ・子育ての専門家や小児科医などが、地域に出向いて、講習をするのがよい。